

“ありがとう”を言える、言われる人が増えるまちづくり

『子ども福祉委員』の取り組み

(福) 阪南市社会福祉協議会 猪俣健一



阪南市の地域概況

	人口	年少人口率	高齢化率	面積
平成18年3月	59,015人	14.8%	17.7%	36.17km ²
平成31年3月	54,244人	11.3%	31.7%	

<特徴>

- 大阪府南部の郊外都市
- 古くからの農漁村地域と開発40年の新興住宅

<特色>

- 紡績業 ・ 泉州水なす
- カキの養殖

<課題>

- 急速な少子高齢化
- 坂のまち 移動困難



阪南市社協の組織体制と主な実施事業

■理事17名、監事2名

■職員22名（本部15・地域包括支援センター7）

○共生の地域づくり推進事業

○小地域ネットワーク事業（校区福祉委員会支援：12校区）

○ボランティアセンター

○生活支援体制整備事業

○日常生活自立支援事業

○貸付相談事業

○地域包括支援センター事業

○地域交流館受託事業 など



きっかけ

～とある校区福祉委員さんの発言～

『このまちは共働きも多く、日中まちに居るのは高齢者と小中学生だけ。ぜひ子どもにも担い手になってほしい！』



平成27年12月 地域福祉計画策定に伴う住民懇談会にて

子ども福祉委員の事業ビジョン

校区福祉委員の高齢化・担い手不足



子どもたちを取り巻く背景



- 孤立化 家族機能の低下
- 訪問活動や、居場所づくりなど市内で597人が活動
- 活動者の平均 約70歳
- 活動の継続や拡大には新たな担い手確保が課題

- 地域活動の機会が少ない
- 自信がない、自己有用感が低い子が多い
- 「生きる力」を育む必要
- 学校は多忙で地域の協力が必要



子どもたちが主体的に地域の担い手となって活動することで、双方の課題解決につながるのでは・・・

計画化→事業実施へ

- 「第3期 阪南市地域福祉推進計画」に明記
- H29年度 厚労省「地域共生社会」モデル事業に位置づけ
共生の地域づくり推進員の配置
- 教育委員会の協力を得てH29年度よりモデル1中学校
- 平成29年5月 飯の峯中全校集会で募集
- 全生徒へチラシを配布し、職員室前に回収箱を設置



私たちも高齢で活動が
しんどい...
一緒にこのまちのため
に活動してほしい！

⇒ 12名が申込み

校区福祉委員から全生徒へ呼びかけ

私たちが大事にした点

- 絶対に、大人の考えや活動を押し付けない。
- 自分たちで必要なことを考え、やりたいと思う気持ちを大切に。
- 学校の枠ではないので、気軽に、楽しく。

困りごとを知る→活動立案

- ・ ミーティングで、どんなことをやりたいか話しあう

地域のお年寄りの
お手伝いをしよう！



近所の独居高齢者
を訪問し聞き取り

解決策を検討

“自分たちで「便利屋」
を立ち上げよう！！”

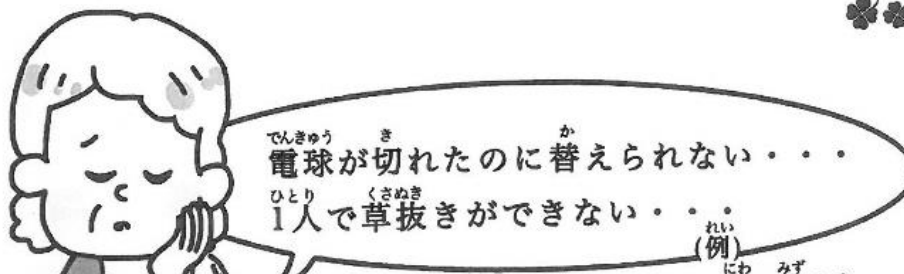


“電球交換ができ
ない・・・”

チラシづくり→配布

もも きたい こ ふくしゅういん
桃の木台子ども福祉委員

子ども福祉委員はお年寄りを助けるサービスを始めました



でんきゅう き か
電球が切れたのに替えられない・・・
ひとり くさぬき
1人で草拔きができない・・・

(例)

- ・庭の水やり
- ・買い物の手伝い
- ・草拔き
- ・電球の取り替え

夢かなえ隊に
お任せください

“何かお園りごとはありませんか？”
話し相手が欲しい、少し悩みを聞いて欲しい。
どんな些細なことでも構いません！

私たちはお話を聞けるのは
勉強にもなるし、なにより
楽しいです。
だからお気軽にお声をおかけください！

申し込みは、
お近くの民生委員か、社会福祉協議会まで



中学生メンバーがチラシを手づくりし、高齢者宅に配布

困りごとの解決

- 平成30年度 16件 延べ78人が参加
- 民生委員、福祉委員、社協職員が依頼の調整や下見、活動の同行など



家具移動や買い物付き添い、電球交換、換気扇掃除など

子ども発！まち歩き まちづくり！

きっかけ：「公園のブランコが壊れてた」「このまちをより良くしたい！」



公園やスーパー、福祉施設、独居高齢者宅などを2チームに分け訪問。

バス停にベンチが無いから高齢者が困っていると思う！



地域の自治会長や行政・事業所など大人向けに報告と提案。

市内全域への拡大（令和1年度）

- 3中学校、1小学校に拡大 計77名
- 申し込んだ想い

「あのVTRを見て、なんかキラキラして見えたから」

「ボランティアしている私のおばあちゃんの背中がかっこよかったから」



地域のサロンで困りごとを募集し、休日に福祉委員さんと一緒に活動



小学生子ども福祉委員が、高齢者施設の子ども食堂のお手伝い

依頼者の声



「若い子が自分を気にかけてくれるだけで嬉しい！」

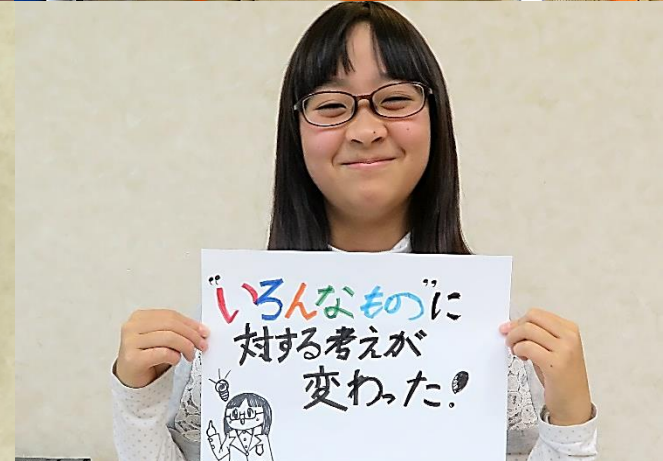
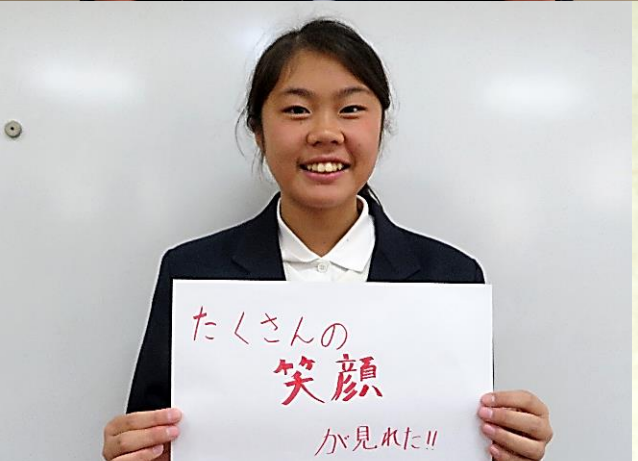
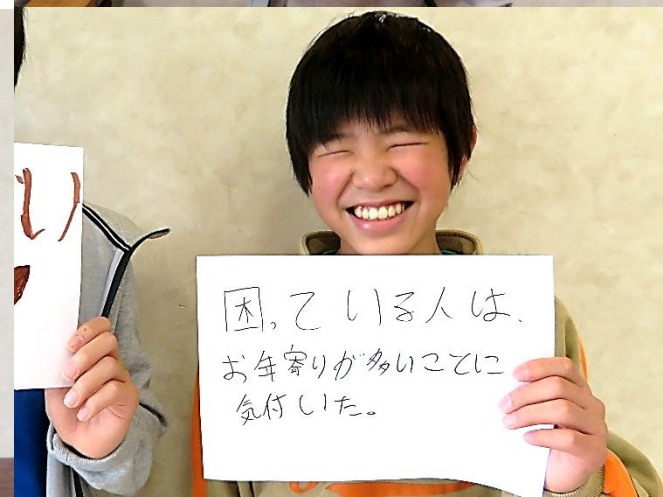
「(換気扇は)ヘルパーさんも出来ないし、障がいがあって困ってたけど本当に助かった！」

「まさか中学生が助けてくれるなんて。阪南市の未来は明るい」

「(クリスマスに)こんなことしてもらえるなんて夢のよう」



子どもたちの声



子どもボランティア宣言

子どもボランティア宣言

今日、阪南市で、ボランティア活動や子ども福祉委員活動に参加する仲間が集いました。

私たちにとって、ボランティアとは、人を助けること、笑顔、交流の場、そして、人との関わりと経験を通して成長することです。

ここに、以下のことを決意し、これからもみんなで協力してボランティア活動に取り組みます。

1. もっとたくさんの人の笑顔を見る
1. 楽しく活動をする
1. いろいろなことを学び、たくさんの人を笑顔にする
1. 積極的に多くの人を笑顔にするためにがんばる



第1回子どもボランティアサミットにて子どもたちが作成し採択（H30.12.16）

子ども主体の活動がもたらすもの

～意識変化アンケート（2019）より～

ボランティアをしたことで...

「Q.普段の生活が楽しくなった」 **97%**

「Q.自分の性格や行動が変わった」 **90%**

子どもの生活
の充実・成長

将来は...

「Q.阪南市に住みたい」 **79%**

「Q.ボランティア活動したい」 **86%**

市への定住促進
将来の担い手確保



子どもボランティアサミット参加の
29名に調査実施（2019.12.15）

この活動の効果

「担い手」「ソーシャルキャピタル(社会関係資本)」

- 10年後の新住民 →20年後のPTA役員
→30年後の福祉委員・民生委員

- 年間30人卒業×10年＝300人

<現在>

- 20人の特に熱心な地域活動コアリーダー層
- 1人のリーダーが50人くらいの活動者を喚起

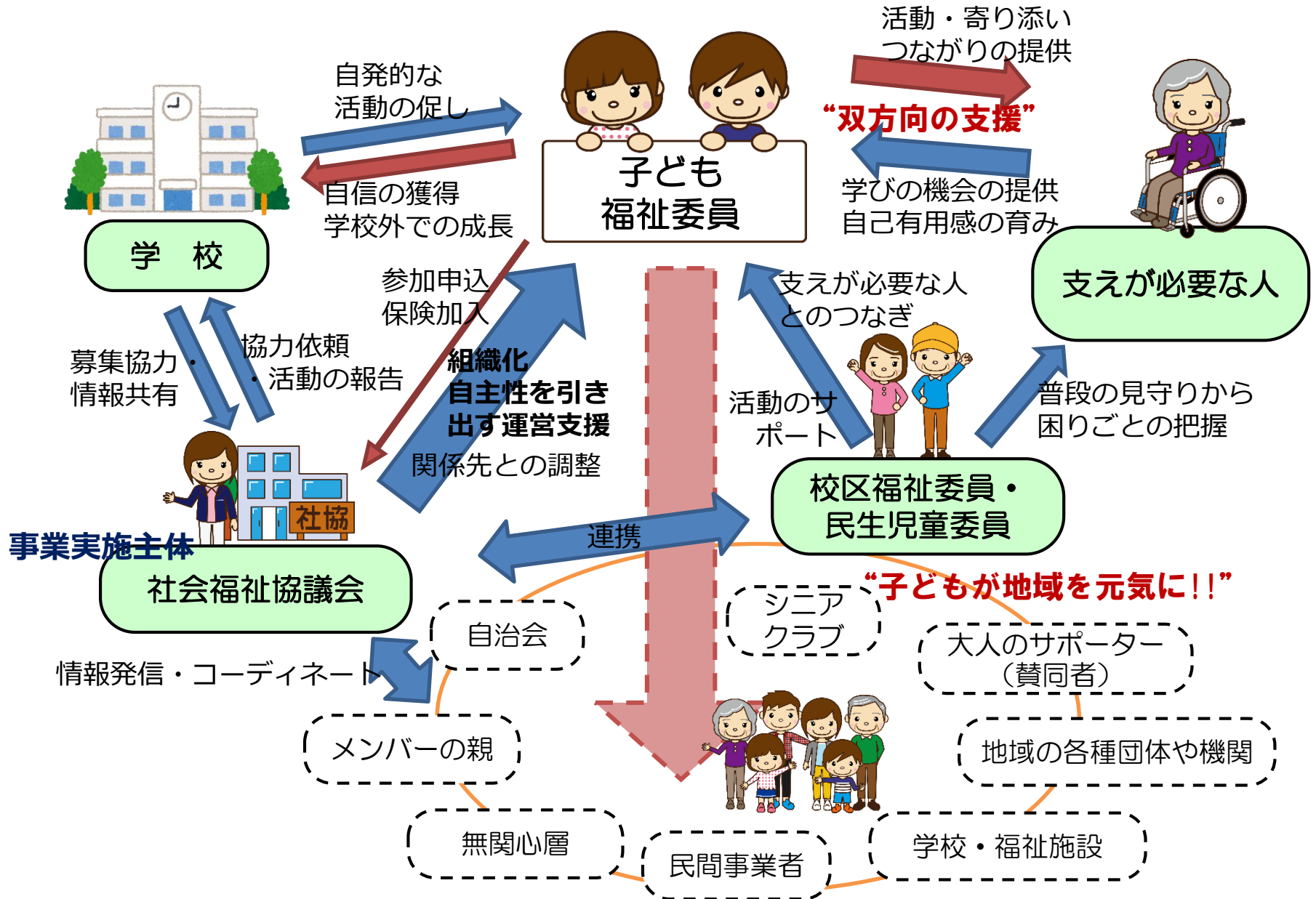
<未来>

- 300人×0.68(居住・活動継続割合)×50人

＝10,200人の活動活性化へ

⇒持続可能なコミュニティづくり

「子ども福祉委員」活動の体系図



子ども福祉委員活動の意義



子ども主体の意義

- 子ども自身の学び、成長、居場所（自己有用感・福祉学習）
- 高齢者や地域の課題解決
- 制度だけでは出来ない身近なつながり
- 依頼者も地域の子どもの育てる担い手



地域への波及効果

- 大人への活動意欲の喚起
- 地域(福祉)への関心 意識向上
- 成人後の地域の担い手づくり
- まち全体への活力付与、起爆剤に

社会福祉協議会（コミュニティワーカー） の役割

- 住民の声、課題の把握
- 事業立案 関係機関との協力調整
- 子どもたちへのボランティア学習、主体形成
- 定例のミーティングや活動の実施支援
- 大人の活動者や団体との橋渡し
- 要援護者の課題や地域課題と活動のマッチング
- 子どもたちの変化、成果の学校や親へのフィードバック
- 活動が継続できる仕組みづくり など